「近世医学の祖」絵本に

越生出身・田代三喜

室町時代に現在の越生町で生まれ、明(現在の中国)で学んだ漢方医学を国内に広めた医者・田代三喜(さんき)の功績を紹介する絵本「田代三喜ものがたり」を、日高市の郷土史研究家・入江武男さん(72)が自費出版した。入江さんは「三喜は日本の医学史上、医者の原点に立つ人物。多くの子どもたちに知ってもらいたい」と話している。

「地元の偉人 知って」

入江さんによると、三喜の父は武士と医者を兼ねていて、伊豆の国(現在の静岡県)から武蔵国田代村(現在の越生町古池)へ移り住んだ。1465年にここで生まれた三喜は、15歳の時に医者を目指すため禅寺へ入って僧侶となり、医学と仏教を学んだ。

23歳で明に渡り、薬草の作り方や医学などを学んだ後、34歳で帰国。鎌倉や古河など関東各地で多

る絵本を出版した。執筆に必要となる文献を調べる過程で、三喜の足跡にたどり着いたという。

入江さんの親類が越生町にいて、子どもの頃からよく通った縁もあり、「学んだことを形で残そう」と三喜の絵本執筆にも着手した。絵は前作も手がけた同市の渡部優子さん(48)に依頼し、約2年かけて昨年秋に完成した。B5判40ページで1500冊作り、多くの地元の子どもたちに読んでもらおうと、越生町に850冊、日高市に150冊を寄贈した。

入江さんは絵本作成のこ

者ら議論

演する。

ションにはパネリスト

写楽研究

越谷市郷・

日、越谷産業

町)で、世界の

きな影響を与

・東洲斎写楽

際浮世絵学会

任理事(千葉

長)を招いた講

草加の遊休不動産 有効活用策考える

1/19 読売 きょうから講座

草加市内の空き店舗や空き家などの改修を促して、新たな事業や交流の場の創出を図る市の「リノベーションまちづくり事業」の一環で、市民らが遊休不動産の有効活用策を考える「第3回リノベーションスクール」が19日に始まる。

同日と26、27日の3日間で、受講生32人のほか、1級建築士や飲食業の起業家ら専門家9人が講師として参加する。

今回は、店舗や家屋の2階部分など4物件が題材となる。受講者は19日に4物件を見学した後、講師も交えて約10人ずつのグループに分かれて物件を有効活用するためのアイデアを練り、27日に不動産所有者に提案する。所有者の理解が得られれば、事業化に向けてさらなる検討に入るという。

市産業振興課によると、これまで2回の同スクールの受講者たちは、レストランや料理教室など7件の新規事業を始めたという。

協定書を持つ菅原市長(左)とセブン-イレブン・ジャパンの担当者(18日、戸田市役所で)

自転車の共同利用サービス「シェアサイクル」で市が協力してきた。同協定に基づき、今回の災害協定も締結された。

市などによると、市内にあるコンビニエンスストア

高齢者宅に防犯人形

1/19 読売 草加市配布

草加市内で振り込め詐欺など特殊詐欺の被害が多発しているため、市は15日、電話がかかってくると音声

識を持ってほしい」と呼び

かけた。

受講した同市の主婦福富

民ホールで開

内にあるさい

主催。演題の

蕨市 交通死ゼロ1300日

蕨市で交通死亡事故の発生がない連続日数が5日、1300日を突破した。連続日数は県内40市の中で1位を記録している。

5・1平方キロ・メートルと全国で最も狭い市内には、約7万5000人が住んでおり、人口密度は全国トップだ。主要道の国道17号が通るなど交通量も多いが、2015年6月以降、交通死亡事故は起きていない。

市内は高低差が少ないため、自転車に乗る人が多く、かつては自転車に乗って交通